



# EXPRESSBUILDER

# 5

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の使用方法とEXPRESSBUILDERにバンドルされている各種管理ソフトウェアの紹介と使用方法について説明します。

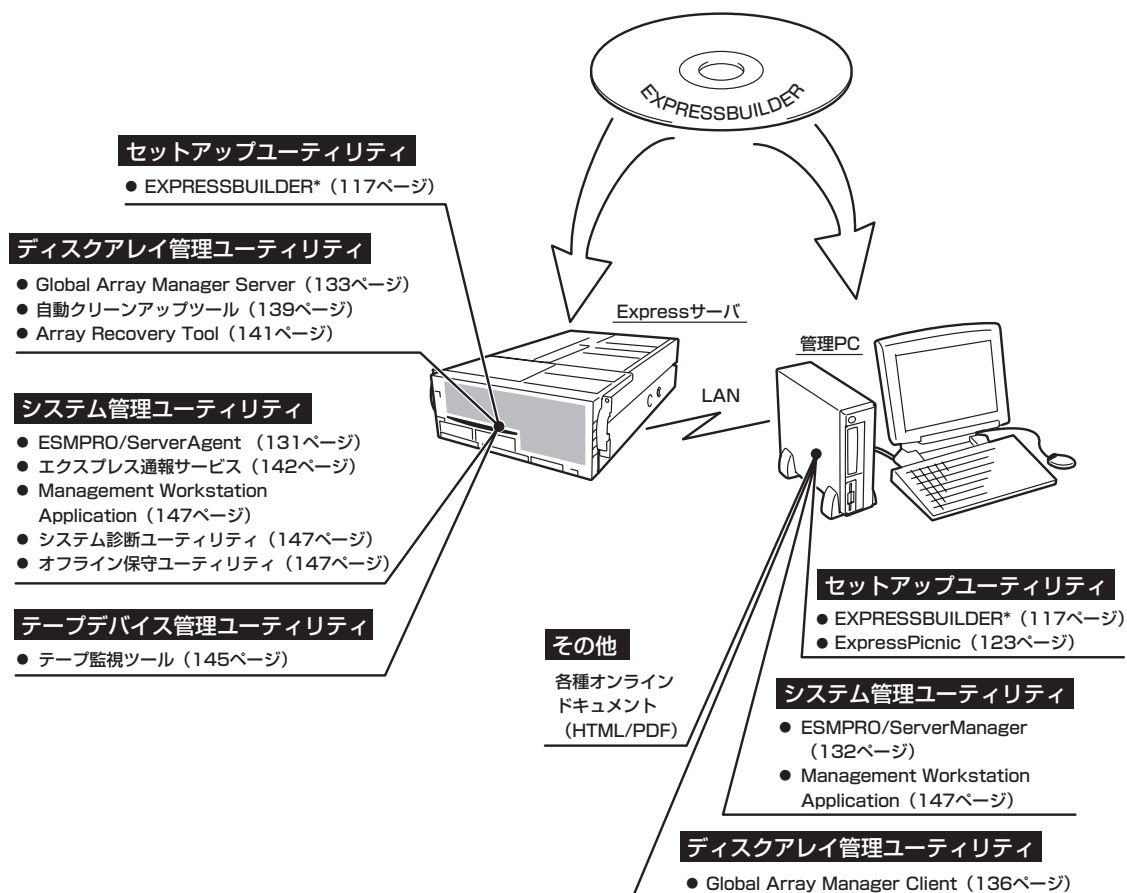
添付のCD-ROMについて(→116ページ) .....	Expressサーバに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているソフトウェアについて紹介します。
EXPRESSBUILDER(→117ページ) .....	セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。
ExpressPicnic(→123ページ) .....	シームレスセットアップ用パラメータディスク(セットアップパラメータFD)を作成するツール「ExpressPicnic」について説明します。
ESMPRO(→131ページ) .....	ストリーミングサーバの統合システム管理ソフトウェア「ESMPRO」について説明します。
Global Array Manager (GAM) (→133ページ) .....	オプションのディスクアレイコントローラや構築しているアレイディスクの保守・管理をするアプリケーションです。
自動クリーンアップツール(→139ページ) .....	アレイディスクのコンシステンシ(整合性)チェックを自動的に行うアプリケーションです。
Array Recovery Tool(→141ページ) .....	不良ハードディスク(DEAD状態)を検出すると自動的にリビルド、整合性チェックを行い、システムドライブを復旧させるアプリケーションです。
エクスプレス通報サービス(→142ページ) .....	障害発生時に自動的に保守サービス会社へ通報するソフトウェアです。
テープ監視ツール(→145ページ) .....	オプションのファイルデバイスのテープの状態などを監視するツールです。
MWA(→147ページ) .....	本装置では未サポートです。
オフライン保守ユーティリティ(→147ページ) .....	本装置では未サポートです。
システム診断(→147ページ) .....	本装置では未サポートです。

# 添付のCD-ROMについて

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、Expressサーバを容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、Expressサーバの機能をより多く引き出すことができます。



CD-ROM「EXPRESSBUILDER」は、Expressサーバの設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。



\* コンソールレスで操作する場合。COMポートも使用可能。



ディスクアレイコントローラのRAIDを設定するユーティリティはボード上のチップに搭載されています。これらのユーティリティの操作方法については、ボードに添付の説明書、またはEXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

# EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの際にはハードウェアの構成を運用時と同じ状態にしてください。

## 起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

### ● EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

EXPRESSBUILDERをExpressサーバのCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でExpressサーバを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目からExpressサーバをセットアップします。



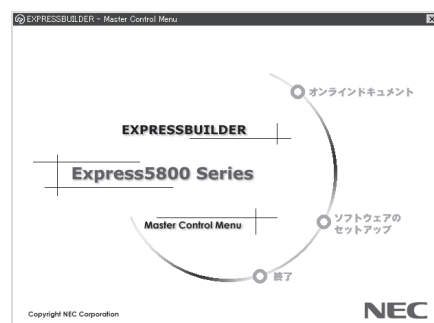
- Expressサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたExpressサーバ以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。
- メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

### ● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows 95/98/Me、またはWindows XP/2000、Windows NT 4.0が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



# EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。



BIOS の設定を間違えると、CD-ROM から起動しない場合があります。EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOS Setupユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

- 「Start Options」-「Startup Sequence Options」メニュー
  - 「First Startup Device」を[CD-ROM]
  - 「Second Startup Device」を[Diskette Drive 0]

## 起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDER トップメニューを起動します。

1. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにする。
2. ExpressサーバのCD-ROMドライブへCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDER トップメニューが現れます。



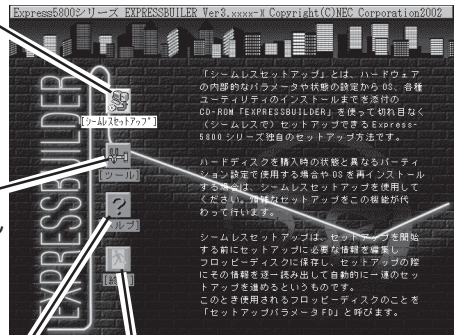
### シームレスセットアップ

セットアップパラメータFDの情報を参照して、切れ目なく(シームレスに)セットアップを行います。OSの再インストールを行う場合、こちらのセットアップ方式を選択してください。



### ツール

EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータによるセットアップを行います。また、インストール済みOSに影響を与えることなくセットアップを行うことができます。



### ヘルプ

EXPRESSBUILDERについて説明します。セットアップを実行する前に一通りを通しておくことをお勧めします。



### 終了

EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。

## シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows 2000)、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。

購入時の状態と異なるハードディスクのパーティション設定で使用する場合は、OSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。

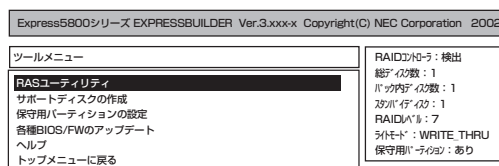
**重要**

- 「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクの内容が失われることがあります。
- セットアップを開始したら、完了するまで本体装置の電源をOFFにしないでください。また、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

## ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。

次にツールメニューにある項目について説明します。



- RASユーティリティ

保守者用のユーティリティです。

- ## — BIOS Setup情報のセーブ

フロッピーディスクにBIOSのコンフィグレーション情報を保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。

- ## — BIOS Setup情報のリストア

フロッピーディスクに保存されたBIOSのコンフィグレーション情報を復元します。  
「BIOS Setup情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。

- SPユーティリティ

Service Processorの持つ通報機能、リモート制御機能を使用するための設定を行います。

## ● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

### ー Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000 Advanced Serverをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します(「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

### ー ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。



Windows OSのパーティション構成によりFDISKが起動できない場合があります。この場合は、Windows OSのディスク管理ツールを使用してパーティションの操作を行ってください。

### ー システムBIOSユーティリティ

システムBIOSユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。システムBIOSユーティリティはシステムBIOS・DIAGのアップデート、システムBIOSのセーブとリストアに使用します。

### ー SPユーティリティ

SPユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。SPユーティリティはSP (Service Processor)の持つ通信機能やリモート制御機能を使用するための設定、SPのファームウェアのアップデートに使用します。

## ● 保守用パーティションの設定

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「保守用パーティションの作成」と「FDISKの起動」以外の項目は表示されません。保守用パーティションの詳細については、20ページを参照してください。



「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、Expressサーバをリセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

### ー 保守用パーティションの作成

16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保し、続けて各種ユーティリティのインストールを行います。すでに保守用パーティションが確保されている場合は、各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

### ー 各種ユーティリティのインストール

ユーティリティ共通部を、CD-ROMから保守用パーティションへインストールします。

## ー FDISKの起動

ROM-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。



Windows OSのパーティション構成によりFDISKが起動できない場合があります。この場合は、Windows OSのディスク管理ツールを使用してパーティションの操作を行ってください。

### ● 各種BIOS/FWのアップデート

8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、ExpressサーバのBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『8番街』：<http://nec8.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

### ● ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

### ● トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

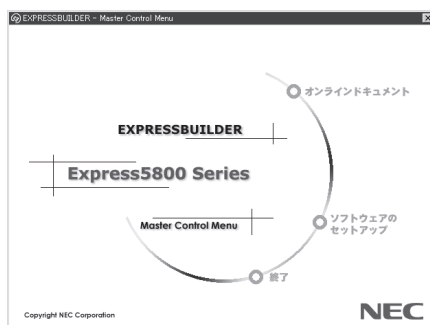
# マスターコントロールメニュー

Windows 95/98/Me、またはWindows XP/2000、Windows NT 4.0が動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE



マスターコントロールメニューからは、Windows 95/98/Me、Windows XP/2000、Windows NTで動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストールしておいてください。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイルが開けないときがあります。そのようなときは190ページを参照して関連付けを再設定してください。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Reader がインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Reader をインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックで現れるポップアップメニューから行います。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。



# ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、Expressサーバのセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをする  
と、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールま  
でのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールする  
ことができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからExpressサーバを  
セットアップすることをお勧めします。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows 2000をインストールすることはできま  
す。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの  
途中で修正・作成することもできます。

## ExpressPicnicのインストール

セットアップパラメータFDを作成するためにWindows XP/2000、またはWindows NT  
3.51以降、Windows 95/98/Meで動作しているコンピュータにExpressPicnicをインス  
トールします。



ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

### Windows XP/2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Me

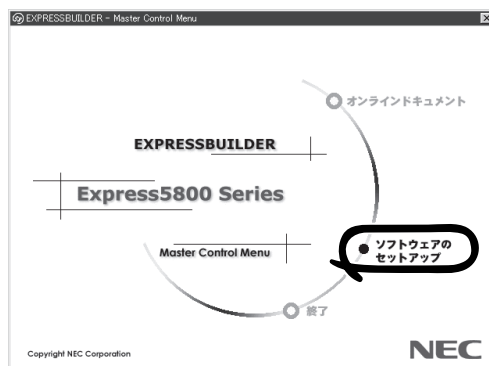
Windows XP/2000、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作しているコン  
ピュータの場合は次の手順でインストールします。



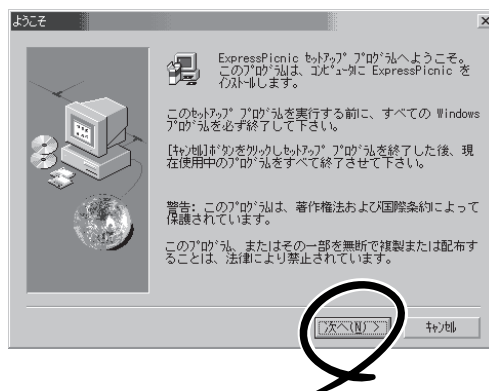
お使いになっているモデルによって画面に表示される内容が多少異なることがありますが、  
同じ手順でセットアップすることができます。

1. OSを起動する。
2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。  
マスターコントロールメニューが表示されます。

- 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックする。  
メニューが表示されます。
- [ExpressPicnic]をクリックする。  
セットアップウィザードが起動します。



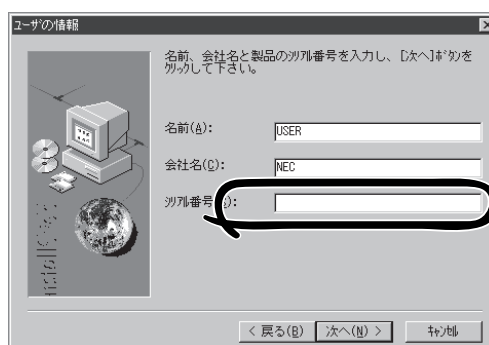
メッセージに従ってインストールを続けてください。



#### チェック

[ユーザの情報]ダイアログボックスの[シリアル番号]を入力する必要はありません。

インストールを完了したら[終了]をクリックし、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。



## Windows NT 3.51

Windows NT 3.51で動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

- Windows NT 3.51を起動する。
- 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。
- ファイルマネージャまたはコマンドプロンプトから、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」の「¥WINNT¥PICNIC¥SETUP¥SETUP.EXE」を実行する。

セットアップウィザードが起動します。メッセージに従ってインストールを続けてください。インストールを完了したら、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

# セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。

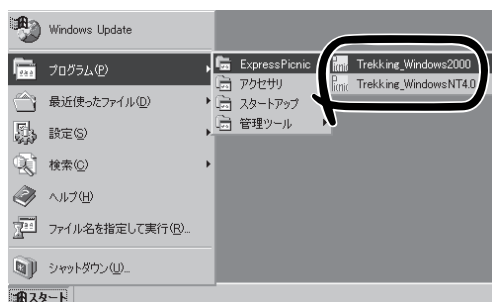


手順の中では、Trekkingコマンドをインストールしたときに指定したフォルダ名を「ExpressPicnic」と仮定しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる。

<Windows XP/2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Meの場合>

スタートメニューから[プログラム]－[ExpressPicnic]－[Trekking]の順にポイントし、[Windows 2000]をクリックする。



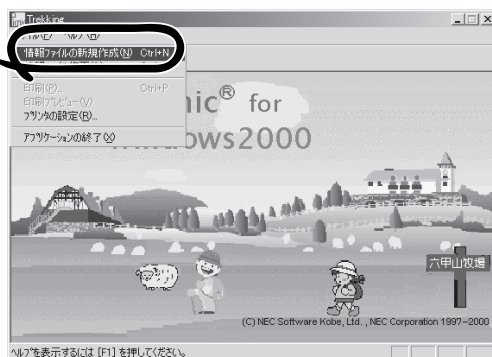
<Windows NT 3.51の場合>

プログラマナーの[ExpressPicnic]グループから[Trekking]アイコンをダブルクリックする。

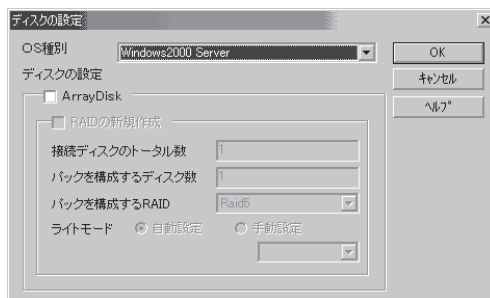


2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。
- [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。



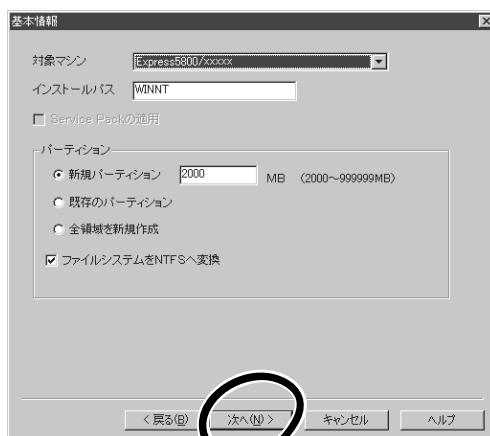
4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。



**チェック**

[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル保存]ダイアログボックスが表示されます。



5. [セットアップパラメータFD]チェックボックスをオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
6. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。



「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows 2000やWindows NT 4.0をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。



- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの[情報ファイルの修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。

# 追加アプリケーションのインストール

EXPRESSBUILDER CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。



追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップ対応されている必要があります。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(125ページ参照)。

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックス順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

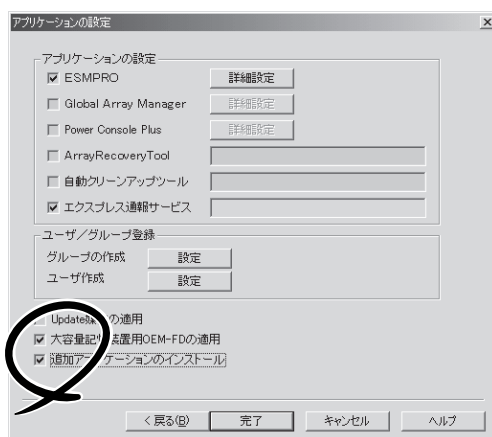
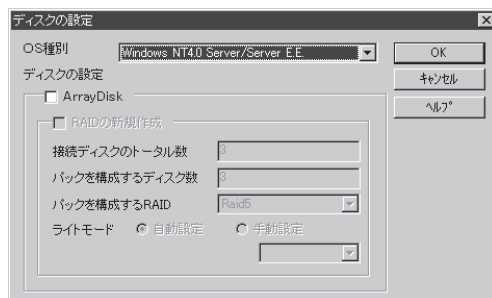


[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール]にチェックを入れる。

6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。



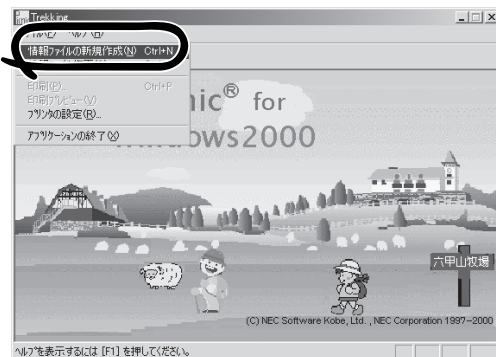
# オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(125ページ参照)。

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



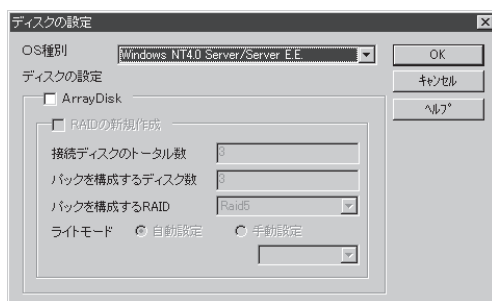
3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。



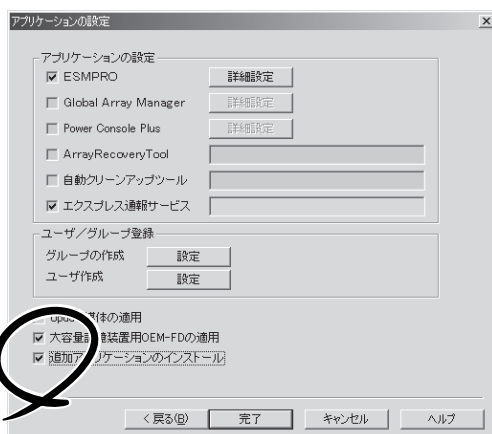
[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。



5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用]にチェックを入れる。



Windows 2000用のセットアップ情報ファイルを作成するとき、[ディスクの設定]で[OS種別]を[Windows 2000 Professional]にした場合は選択できません。



6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

# コンピュータからの情報採取

ExpressPicnicが、起動しているマシンのセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します。



チェック

- ユーザ/グループ情報は採取できません。
- リモートアクセスサービス(RAS)については設定情報を採取できません。
- アプリケーションで設定情報を採取できるのは、ESMPRO/ServerAgentだけです。
- 取得できない情報に関しては、既定値を表示しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(125ページ参照)。

2. [オプション]メニューの[現マシンから情報取得]をクリックする。

取得後は、確認/修正画面に移ります。初期値が、取得したデータになっていることを除けば「情報ファイルの新規作成」、あるいは「情報ファイル修正」と同じです。



# 大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要があるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(125ページ参照)。

2. [オプション]メニューの[大量インストール]をクリックする。

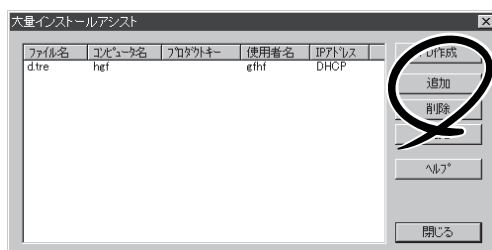
3. [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。

ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。



4. [追加]をクリックする。

5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。

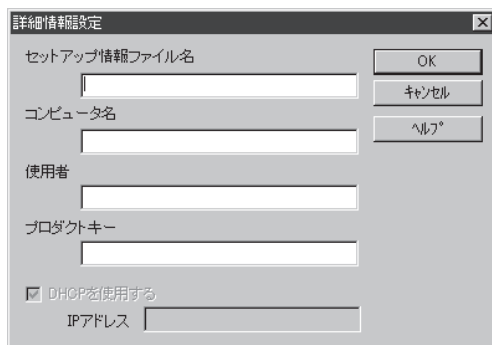


6. [OK]をクリックする。

リストに追加した情報が表示されます。

7. ファイル名を選択し、[FD作成]をクリックする。

選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。





# ESMPRO

Expressサーバのシステム全般を保守・管理するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」について説明します。ESMPRO/ServerAgentはExpressサーバにインストールします。ESMPRO/ServerManagerは管理PCにインストールします。

## ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)はWindows 2000で運用しているExpressサーバにインストールするサーバ監視用アプリケーションです。EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



運用上の注意事項については、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版) インストールガイド」に記載しています。ご覧ください。

### インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはWindows 2000のTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

#### ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

#### SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

### インストール

ESMPRO/ServerAgentのインストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。Expressサーバ上のWindows 2000が起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]－[ESMPRO]－[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。





- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- Mylexディスクアレイコントローラを監視する場合は、Global Array Managerをインストールする必要があります。EXPRESSBUILDERからESMPRO/ServerAgentのセットアップを起動すると、自動的にGlobal Array Managerのインストーラは起動します。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

## インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. Expressサーバを再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめてインストールし直してください。

# ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、EXPRESSBUILDERにバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」を参照してください。

# Global Array Manager(GAM)

Expressサーバに搭載したディスクアレイコントローラおよびディスクアレイを構築しているアレイシステムを保守・管理するソフトウェア「Global Array Manager (GAM) Server」と「Global Array Manager (GAM) Client」について説明します。GAM ServerはExpressサーバにインストールします。GAM Clientは管理PCにインストールします。

## Global Array Manager Server(Windows 2000/Windows NT版)

Global Array Manager (GAM) Server (Windows 2000/Windows NT版)はMylexディスクアレイシステムを構築しているWindows 2000/Windows NTサーバの監視・管理用のアプリケーションです。

GAM Serverの動作環境については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版) インストールガイド」を参照してください。GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager オペレーションガイド」を参照してください。

### カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にGAM Serverがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのGAM Serverの管理者用アカウントである「gamroot」は作成していますが、パスワードを設定していません。このままでも使用できますが、セキュリティ保持の観点からパスワードを設定されることをお勧めします。

購入時にインストール済みのGAM Serverの設定内容については、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版)インストールガイド」に記載しています。

## シームレスセットアップを使ったセットアップ

GAM Serverは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Global Array Manager」を選択してください。「手動インストール(新規インストール)」の「GAM Serverをインストールする前に」で記載した内容を満足するようにシームレスセットアップ中のセットアップ情報を設定してください(DACドライバはMylexディスクアレイコントローラが接続されたマシンのシームレスセットアップで自動的に組み込まれます)。

シームレスセットアップ後に設定をしなければならない項目は特にありません。ただし、GAM ClientからGAM Serverを制御するために「administrator」権限を持つユーザー「gamroot」が必要です。シームレスセットアップではこの「gamroot」を作成します。シームレスセットアップでGAMをインストールするときはシームレスセットアップの設定時に「gamroot」のパスワードを設定することをお勧めします。パスワードを設定しないとセキュリティ上の問題が発生する可能性があります。

## 手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。インストールに関する詳しい手順については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版) インストールガイド」を参照してください。また、GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

---

### GAM Serverをインストールする前に

GAM Server (Windows 2000/Windows NT版)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- DACドライバが組み込み済みであること
- TCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること  
59ページを参照してください。
- SNMPサービスの設定が終了していること  
ESMPROと連携する場合GAM Serverのインストールに先立って設定を終了させておく必要があります。

## GAM Serverのインストール手順

GAM Serverのインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」と書かれたCD-ROMを使用します。

Expressサーバ上のWindows 2000が起動した後、EXPRESSBUILDERのCD-ROMをドライブにセットするとAutorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]→[ESMPRO]→[関連ユーティリティ]→[Global Array Manager]の順にクリックします。ここで表示される[セットアップオプションの選択]ダイアログボックスの[GAM Serverインストール]をチェックし、[次へ]をクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください(各ダイアログボックスでの推奨する操作をヒントにまとめています)。



- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- GAM Serverのインストール後は必ずシステムを再起動してください。



[セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます]はチェックしてください。



## GAM Serverの環境設定

### ● GAMの管理者用アカウントgamrootの登録

GAMを使用する場合、GAMの管理者用のアカウントであるgamroot(すべて小文字)というユーザーが必要です。Windows 2000のユーザーマネージャで登録してください。gamrootが所属するグループにはAdministrators(ドメインサーバの場合はDomain Admins)を追加してください。



カスタムインストールモデルなどでGAM Serverをインストールして出荷している装置については、gamrootユーザーは登録済みです。ただし、パスワードを設定していません。セキュリティ保持の観点から必ず、パスワードを設定するようにしてください。

### ● GAM Serverの環境設定ファイルの修正

[セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます]をチェックした場合、この作業は不要です。なお、修正する場合はオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版)インストールレーションガイド」を参照してください。

# Global Array Manager Client

Global Array Manager (GAM) Clientは、GAM Serverと連携してMylexディスクアレイシステムを監視し、グラフィカルな画面で簡単に管理や操作をすることができます。

GAM Clientの動作環境については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Client インストレーションガイド」を参照してください。GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager オペレーションガイド」を参照してください。

## カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にGAM Clientがあらかじめインストールされている場合もあります。GAM Clientがインストール済みのExpressサーバに後からESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、環境設定をし直してください。環境設定については後述のGAM Clientの環境設定やCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Client インストレーションガイド」に記載しています。

購入時、Expressサーバにインストール済みのGAM Clientの設定内容についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Global Array Manager Client インストレーションガイド」に記載しています。

## シームレスセットアップを使ったセットアップ

GAM Clientは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Global Array Manager」を選択してください。なお、シームレスセットアップでTCP/IPの設定をするようにセットアップ情報を設定してください。

シームレスセットアップでGAM Clientをインストールした場合で、後からESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、環境設定をし直してください。環境設定については後述のGAM Clientの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Client インストレーションガイド」を参照してください。

## 手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。インストールに関する詳しい手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Client インストレーションガイド」を参照してください。また、GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager オペレーションガイド」を参照してください。



## GAM Clientをインストールする前に

GAM Clientをインストールするときは、次の準備が必要です。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- Windows 2000/Windows NTのシステムにインストールする場合はAdministratorsグループでログオンしていること
- ESMPRO/ServerManagerのインストールが完了していること (ESMPROとの連携を行う場合のみ)
- マウスまたはその他のポインティングデバイスが使えること

## GAM Clientのインストール手順

GAM Clientのインストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。

Windows 2000、Windows NT 4.0、Windows 95/98/MeではEXPRESSBUILDERのCD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ESMPRO]－[関連ユーティリティ]－[Global Array Manager]の順にクリックします。ここで表示される[セットアップオプションの選択]ダイアログボックスの[GAM Clientインストール]をチェックし、[次へ]をクリックし、以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください(各ダイアログボックスでの推奨する操作を ヒントにまとめています)。



Windows 2000/Windows NTのシステムにインストールする場合、インストール時はAdministratorsグループでログオンしてください。



- [セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます]はチェックしてください。
- EXPRESSBUILDERのメニューから選択してGAM Clientをインストールする場合はインストール先のシステムの状態によってインストールされるGAM Clientのバージョンが異なります。インストールされるGAM Clientのバージョンについては「Global Array Manager Clientインストールガイド」を参照してください。特定のバージョンのGAM Clientをインストールする場合も「Global Array Manager Clientインストールガイド」を参照してください。EXPRESSBUILDER内にオンラインドキュメントとして格納されています。
- GAM ClientとGAM Serverのバージョン組み合わせによって有効な場合と無効な場合があります。このため1つのマシンに複数のGAM Clientをインストールし使い分ける必要があります。詳しくはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメントを参照してください。



---

## GAM Clientの環境設定

GAM Clientをインストールしたら、ここで説明する手順に従って環境設定をします。

### ESMPROとの連携のための環境設定

GAM Clientは、ESMPROと連携させることで、ESMPROの統合ビューアのメニューからGAM Clientを起動できるようになります。



ESMPROと連携するための環境設定は、次の場合に必要です。

- GAM Clientのインストール時に環境設定を行わなかったとき
- GAM Clientの後にESMPRO/Server Managerをインストールしたとき

GAM ClientとESMPROを連携させるための環境設定は「コンフィグウィザード」を使います。「コンフィグウィザード」はGlobal Array Managerの環境設定を行うためのプログラムであり、起動するとESMPROと連携するための環境設定を自動的行います。「コンフィグウィザード」は、GAM Clientのインストール先のディレクトリにある「configwz.exe」を起動することで動作します。

### ショートカットの作成について<Windows NT4.0、Windows95/98のみ>

通常は、プログラムメニューからGAM Clientを起動してください。

新たにGAM Clientのショートカットを作成するときは、プログラムメニューにあるショートカットをコピーしてください。

エクスプローラなどからGAM Clientのショートカットを作成したときは、ショートカットのプロパティを以下のように修正してご使用ください。

#### ● リンク先の内容

<インストールパス>¥winact.exe /file=<インストールパス>¥gam2cl.act

例)

(変更前)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥GAM2CL.EXE"

(変更後)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥winact.exe" /file=C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥gam2cl.act

#### ● アイコンのファイル名

<インストールパス>¥gam2cl.ico

例)

(変更前)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥GAM2CL.EXE"

(変更後)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥gam2cl.ico"



# 自動クリーンアップツール

自動クリーンアップツールはMylexディスクアレイの整合性をチェックし、検出した不整合を修復するアプリケーションです。

自動クリーンアップツールの動作環境や使用方法については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストールレーションガイド」を参照してください。

## カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時に自動クリーンアップツールがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みの自動クリーンアップツールは、スケジュールの設定がされていません。スケジュール設定については、後述の自動クリーンアップツールの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストールレーションガイド」を参照し、設定してください。

購入時にインストール済みの自動クリーンアップツールの設定内容についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストールレーションガイド」に記載しています。

## シームレスセットアップを使ったセットアップ

自動クリーンアップツールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます(DACドライバやGAMドライバはMylexディスクアレイコントローラが接続されたマシンのシームレスセットアップで自動的に組み込まれます)。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「自動クリーンアップツール」を選択してください。なお、「手動インストール(新規インストール)」の「自動クリーンアップツールをインストールする前に」で記載した内容を満足するようにシームレスセットアップ中のセットアップ情報を設定してください。

シームレスセットアップはスケジュール設定までは行っていません。スケジュール設定については後述の自動クリーンアップツールの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストールレーションガイド」を参照し、設定してください。

# 手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。  
インストールや操作に関する詳しい手順については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストールレーションガイド」を参照してください。

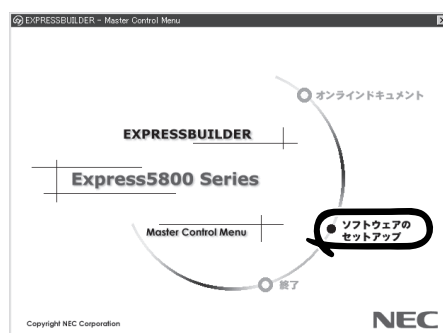
## 自動クリーンアップツールをインストールする前に

自動クリーンアップツールをインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- DACドライバが組み込み済みであること
  - GAM Serverが組み込み済みであること
  - システムのアップデートが終了していること
- 59ページを参照してください。

## 自動クリーンアップツールのインストール手順

自動クリーンアップツールのインストールは添付CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。Expressサーバ上のWindows 2000が起動した後、EXPRESSBUILDERのCD-ROMをドライブにセットするとAutorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]→[自動クリーンアップツール]をクリックします(またはダイアログボックス上で右クリックすると表示されるポップアップメニューから選択します)。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

## 自動クリーンアップツールの環境設定

自動クリーンアップツールのスケジュール起動はWindows 2000の標準機能であるATコマンドのスケジュール機能を利用します。この場合、scheduleサービスが実行中でなければなりません。

scheduleサービスの起動はコントロールパネルの[サービス]をダブルクリックして表示される[サービス]ダイアログボックスで行います。



- サービスの設定はAdministratorsローカルグループのメンバであるユーザーアカウントでログオンする必要があります。
- scheduleサービスのスタートアップは「自動」に設定しておくことをお勧めします。

# Array Recovery Tool

Array Recovery Toolは、Mylexディスクアレイコントローラに接続されているハードディスクの状態を監視し、不良ハードディスク(DEAD状態)を検出すると自動的にリビルド、整合性チェックを行い、システムドライブを復旧します。

Array Recovery Toolのインストールは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。インストール終了後に特別な設定などをする必要はありません。Array Recovery Toolのインストールや動作環境の設定についてはEXPRESSBUILDER内のオンラインドキュメントを参照してください。



# エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント／サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

## カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照して設定してください。

### セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

## エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]をクリックする。  
アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。  
[エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。  
エクスプレス通報サービスが有効となります。

## 手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

### エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

#### ハードウェア

- メモリ 18.0MB以上
- ハードディスクの空き容量 30.0MB以上
- モデム  
ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデムが必要です。ダイヤルアップ経由のエクスプレス通報で使用するモデムはNECフィールディングにご相談ください。
- メールサーバ  
電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

#### ソフトウェア

- Microsoft® Windows® 2000 日本語版(Server/Advanced Server/Professional)
- Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Server/Workstation)
- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.1以降

## セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

## PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

# テープ監視ツール

テープ監視ツールは、Expressサーバに搭載したテープドライブならびに使用しているテープメディアの状態を監視するユーティリティです。

ヘッドの汚れや不良テープの使用などによるバックアップファイルの消失やバックアップの失敗などを防止するために、テープドライブを搭載している装置にはこのユーティリティをインストールすることをお勧めします。

## カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にテープ監視ツールがあらかじめインストールされている場合があります。インストール済みのテープ監視ツールのサービスを次のように設定してください。サービスの設定は[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックすると起動します。

- 選択するサービス名: TapeAlertChecker
- スタートアップの種類: 自動
- ログオン: システムアカウント  
[デスクトップとの対話をサービスに許可]にチェック

サービスに[TapeAlertChecker]がない場合は、装置にインストールされていません。次の「手動インストール(新規インストール)」を参照してインストールしてください。

## 手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。詳しくはオンラインドキュメントの「テープ監視ツールセットアップガイド」をご覧ください。オンラインドキュメントは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにPDFファイルで格納されています。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥\_inst32i¥SG\_TP3.pdf

## 動作環境

### ハードウェア

- インストールする装置 Express5800/50、100、600シリーズ本体
- メモリ 500KB以上
- ハードディスクの空き容量 2.2MB以上

### ソフトウェア

- オペレーティングシステム
  - Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Service Pack 5以降)
  - Microsoft® Windows® 2000 日本語版

- アプリケーション

- ARCserve J6.0 for Windows NT (SP3)(全エディション)
- ARCserve J6.5 for Windows NT (全エディション、Patch07が必要)
- ARCserveT J6.61 for Windows NT (全エディション)
- ARCserve 2000 (SP2) (全エディション)
- BackupExec for Windows NT Ver.7.3
- BackupExec for Windows NT Ver.8.5
- NTBackup (Windows NT標準装備のバックアップツール)
- BKUP

## 監視対象装置

テープ監視ツールで監視できるテープドライブは次のとおりです(2002年3月現在)。

- |                      |                                                    |
|----------------------|----------------------------------------------------|
| ● 内蔵/外付 AIT          | N8151-28/-34/-41/-44、<br>N8551-19/-28/-34、N8560-16 |
| ● 内蔵/外付 AIT集合型       | N8151-29、N8551-20/-29/-36、N8560-17                 |
| ● 内蔵/外付 DAT (DDS3)   | N8151-12BC、N8551-12/-12A/-12BC、<br>N8560-12/-12AC  |
| ● 内蔵/外付 DAT集合型(DDS3) | N8551-13/-13AC、N8560-13/-13AC                      |
| ● 内蔵TRAVAN           | N8551-21                                           |
| ● 外付TRAVAN集合型        | N8560-19                                           |
| ● 内蔵/外付 DAT (DDS4)   | N8151-26/-43、N8551-26、N8560-22                     |
| ● 内蔵/外付 DAT集合型(DDS4) | N8151-27、N8551-27、N8560-23                         |
| ● 内蔵SLOT             | N8151-38                                           |
| ● 内蔵LTO              | N8151-37/-40                                       |
| ● 外付LTO              | N8160-39                                           |

対象ドライブとバックアップソフトの対応につきましてはNECのWeb情報ページにある8番街(<http://nec8.com/>)の「ケア・サポート」―「テクニカルガイド」―「Express5800/100シリーズテクニカルガイド」にあります。バックアップ装置<バックアップ装置対応ソフトウェア①WindowsNT/2000>を確認してください。

## インストール手順

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにある「Setup.exe」をエクスプローラなどから起動してください。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥\_inst32i¥setup.exe

以降は画面に表示されるメッセージに従ってください。詳しくはオンラインドキュメントで説明しています。

インストールの完了後、サービスが動作していることを確認してください。前ページの「カスタムインストールモデルでのセットアップ」の説明を参照してください。

監視についての詳細な設定は、iniファイルを編集することで変更できます。iniファイルは「C:¥Program Files¥TapeAlertChecker¥Ctrl.ini」です(デフォルトの設定でインストールした場合)。設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。



# MWA - Management Workstation Application -

この装置ではMWAによるリモート管理機能をサポートしていません。

## オフライン保守ユーティリティ

本装置ではオフライン保守ユーティリティをサポートしていません。RASユーティリティを使用してください。

## システム診断

システム診断はExpressサーバに内蔵の診断プログラムを使用します。EXPRESSBUILDERには診断ユーティリティは格納されていません。また、他のEXPRESSBUILDERに格納されている診断ユーティリティを使った診断も行えません。

～Memo～